

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	電子情報工学特別演習
科目基礎情報					
科目番号	0075		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教員が指定するもの				
担当教員	楡井 雅巳, 押田 京一, 荒井 善昭, 西村 治, 大矢 健一, 藤澤 義範, 伊藤 祥一, 芦田 和毅, 藤田 悠				
到達目標					
専門科目の問題演習, および, 企業への訪問調査を通じて自己能力の向上をはかるための取り組みに気づき, 調査したことをまとめて業務と学習の関連の概要を説明できることでG-1の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
インターンシップ計画	インターンシップに関する準備や報告を計画的に実施できる。	インターンシップに関する準備や報告を実施できる。	インターンシップに関する準備や報告を実施できない。		
専門科目の問題演習	専門科目の問題演習を積極的に実施できる。	専門科目の問題演習を実施できる。	専門科目の問題演習を実施できない。		
企業への訪問調査	企業への訪問調査を積極的に実施できる。	企業への訪問調査を実施できる。	企業への訪問調査を遂行できない。		
学科の到達目標項目との関係					
(G-1) 産業システム工学プログラム					
教育方法等					
概要	企業・機関などにおいて, 専門分野に関連した業務はどのように行われているのかを調査し, 技術者として必要な心構えと適応力を養う。また技術士一次試験相当の専門科目演習に自ら取り組むことで, 今後の学習意欲の維持向上をはかる。				
授業の進め方・方法	インターンシップについては説明会や報告会に参加する。講義については各担当者が個別のテーマについて説明をするのでそれを聴講し, 課される課題に取り組む。				
注意点	<p><成績評価> 講義に関する確認テストや課題(60%), 報告書(20%), 学習内容の報告内容(20%)の合計100点でG-2を評価し, 60点以上獲得したものをこの科目の合格者とする。</p> <p><オフィスアワー> 毎週火曜日16:00~17:00, 担当教員の教員室。</p> <p><先修科目・後修科目> なし。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	インターンシップ事業1研修会	企業の方・前年度実習に行った学生・学校の担当者で行うパネルディスカッションに参加し, インターンシップに関して理解を深め, インターンシップの意味を理解できる。	
		2週	インターンシップ事業2企業説明会1	実習受け入れ可能企業の方に, 企業説明・実習可能内容・仕事をすることで必要なことなどについてお話をいただき, インターンシップの具体的な内容を理解できる。	
		3週	インターンシップ事業2企業説明会2	実習受け入れ可能企業の方に, 企業説明・実習可能内容・仕事をすることで必要なことなどについてお話をいただき, インターンシップの具体的な内容を理解できる。	
		4週	電磁気学1	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い, 取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し, 自ら学修することができる。	
		5週	電磁気学2	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い, 取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し, 自ら学修することができる。	
		6週	電気回路1	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い, 取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し, 自ら学修することができる。	
		7週	電気回路2	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い, 取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し, 自ら学修することができる。	
		8週	電子回路1	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い, 取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し, 自ら学修することができる。	
	2ndQ	9週	電子回路2	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い, 取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し, 自ら学修することができる。	
		10週	電子応用1	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い, 取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し, 自ら学修することができる。	
		11週	電子応用2	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い, 取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し, 自ら学修することができる。	
		12週	デジタル回路1	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い, 取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し, 自ら学修することができる。	

		13週	デジタル回路2	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い、取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し、自ら学修することができる。
		14週	情報通信1	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い、取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し、自ら学修することができる。
		15週	情報通信2	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い、取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し、自ら学修することができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	ソフトウェア工学1	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い、取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し、自ら学修することができる。
		2週	ソフトウェア工学2	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い、取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し、自ら学修することができる。
		3週	コンピュータ工学1	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い、取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し、自ら学修することができる。
		4週	コンピュータ工学2	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い、取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し、自ら学修することができる。
		5週	情報システム・データ工学1	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い、取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し、自ら学修することができる。
		6週	情報システム・データ工学2	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い、取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し、自ら学修することができる。
		7週	情報ネットワーク1	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い、取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し、自ら学修することができる。
		8週	情報ネットワーク2	技術士一次試験相当の専門科目について演習を行い、取り組むために必要な各自の知識や科目分野について理解し、自ら学修することができる。
	4thQ	9週	企業訪問による実地調査1	専門分野に関連する事業を行っている企業等を訪問し、業務内容や技術者の役割について調査し、報告書を作成することができる。
		10週	企業訪問による実地調査2	専門分野に関連する事業を行っている企業等を訪問し、業務内容や技術者の役割について調査し、報告書を作成することができる。
		11週	企業訪問による実地調査3	専門分野に関連する事業を行っている企業等を訪問し、業務内容や技術者の役割について調査し、報告書を作成することができる。
		12週	企業訪問による実地調査4	専門分野に関連する事業を行っている企業等を訪問し、業務内容や技術者の役割について調査し、報告書を作成することができる。
		13週	インターンシップ事業4報告会1	インターンシップ参加者の実習の内容や実習で得られたことを後輩へのアドバイス等のまとめを聴講して、意義が理解できる。
		14週	インターンシップ事業4報告会2	インターンシップ参加者の実習の内容や実習で得られたことを後輩へのアドバイス等のまとめを聴講して、意義が理解できる。
		15週	学習内容の報告	企業訪問調査の内容を中心に、技術者としての業務と学習との関連の概要をまとめて報告できる。
		16週		
評価割合				
		試験	レポート	合計
総合評価割合		60	40	100
配点		60	40	100